



リード付きマイカコンデンサご使用上の注意事項

本製品をご使用される場合、コンデンサの周囲条件（設計機器での使用材料、環境、回路条件など）により異常が発生しますと最悪の場合、製品のショート、オープン、発煙、発火などの恐れがあります。

下記に本製品の使用上の注意事項を記載しますので、内容を確認の上ご使用頂けますようお願い致します。尚、記載されていない事項について疑問等ございましたら当社販売窓口までお問合せください。

1. 使用温度範囲および使用環境

- ① 本製品は、周囲温度+自己発熱温度が使用温度範囲を超えないようにご使用ください。
- ② 使用温度を超えてご使用された場合、誘電体の物性が変化し静電容量、誘電正接等の著しい低下を招き製品そのものの寿命を縮めるだけでなく、発煙、発火の危険性もありますので十分ご注意の程お願いします。

2. 内部発熱

交流用途でご使用される場合、電力損失により内部発熱が生じます。発熱量は周囲温度、放熱条件、輻射、熱伝導等によって左右されるため、正確に把握する事が困難です。

そのため、疑わしい場合には実機による実装実験をしていただくことをお勧め致します。

この時の温度上昇は自己発熱 20℃以下で有る事が前提となります。

尚、実験の際には以下の点に留意して行ってください。

- ① 試験は仮設ではなく、設計完了品、量産品で行うことをお勧めします。
- ② 発熱の測定は熱平衡状態（温度が上昇しなくなる状態）で行ってください。

3. 使用電圧

- ① コンデンサにおける電圧は試験電圧、定格電圧に大別されます。

試験電圧は極めて短時間コンデンサが耐える電圧であり、定格電圧とは使用温度範囲内にて連続使用に耐えうる電圧です。（電圧を印加し続けても使用温度範囲を超えない電圧）

- ② 高周波でご使用される場合は、電圧軽減曲線の電圧を参照に曲線電圧以下でご使用下さい。この時、ピーク電圧で無く実効値電圧に変換を頂いた後の電圧となります。

4. その他

- ① コンデンサを実装する際に端子部に直接手で触れる場合には、コンデンサに貯まった電荷により感電する危険性を回避するため、必ずコンデンサを放電させてから触れるようにしてください。
- ② 製品及び包装材料の廃棄については、排出業者自らが適正に処理することを定めた法律や条例がありますので、それらの法律を遵守してください。
- ③ カタログ記載の仕様、材質、その他の記載内容について予告なく変更する場合がありますので予めご了承ください。